

# 令和2年度 施策評価シート

<b>基本目標</b>		新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる
<b>政策</b>	310	新しい価値を創造し、産業の進化・発展を図る
<b>施策</b>	313	「ものづくりのまち すみだ」をプロモーションする
<b>施策の目標</b>	すみだのものづくり企業が、技術やデザイン等、クオリティの高さをもって付加価値の高い商品を生みだし、その商品をさまざまな手法でプロモーションすることにより、国内外に広く販路が拡大しています。また、国内外からすみだを訪れた人々が、ものづくり体験や買い物を楽しんでいます。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	すみだ地域ブランド戦略ホームページの延べアクセス数									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	4,840				7,500					10,000
実績	4,060	3,436	2,710							

  

指標名	区内製造業における付加価値額									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標					160000					170000
実績	149157									

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
付加価値の高い商品を生み出し、さらに販路拡大していくためには、意欲ある事業者の積極的・横断的な取組を促すとともに、これらが国内外でなお、一層認知されるようになる施策を展開していくことが求められる。本区のものづくりのまちとしての認知度の向上を図る指標をホームページのアクセス数としているが、SNSの利用増加に伴い、その数は減少している。	H29	70,141
	H30	69,964
	R1	81,882

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	すみだ地域ブランド戦略にあたっての事業者アンケート結果によると、産業振興施策については一定程度の高評価を得た。しかし、各事業及び関係する区内事業者の魅力的な取組については、まだ十分な浸透が図れていないため、今後より一層の効果的な発信が必要と考える。

## 4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
<b>【上記の判断理由】</b>	
With/Afterコロナや東京オリンピック・パラリンピックを見据えながら、「新しいものづくりのまち」としてのブランド力の向上を図っていく必要がある。	
<b>【今後の具体的な方針】</b>	
産業と観光の融合を図りながら、区内事業者間、各事務事業間の連携を更に進め、コロナ禍においても地域全体として認知される訴求力の高いプロモーションを検討し、実行していく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
						評価対象年度
1	地域ブランド戦略推進事業	42,811	30,583	73,394	70	改善・見直し
					51	令和元年度
2	3M運動推進費	8,221	7,864	16,085	37,000	改善・見直しのうえ継続
					35,852	令和元年度
3	ものづくりプロモーションの 推進	16,818	13,981	30,799	24,000	改善・見直しのうえ継続
					26,555	令和元年度
4	区内中小企業知的財産権 取得支援事業	1,599	2,621	4,220	12	現状維持
					11	令和元年度
5	営業力強化・販路開拓支援 事業	10,171	5,243	15,414	15	現状維持
					45	令和元年度
6	「アウトオブキツザニア イン 墨田区」事業	2,262	3,495	5,757	1,800	改善・見直しのうえ継続
					1,394	令和元年度
7						
8						
9						
10						
11						
12						



事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活動指標)	指 標	展示会等への出展数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		15	令和7年度	目標	10	10	10	10
				実績	7	10	9	10
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	10	15	15	15	15	15	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	すみだ地域ブランドの知名度向上を図るためには、催事や展示会等へ積極的に参加し、幅広い周知を行う必要があるため、その回数を目標値として選定する。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成果指標)	指 標	展示会等への来場者数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
6000		令和7年度	目標	5000	5000	5000	5000	
			実績	5000	5000	5000	5000	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	5500	5500	5500	6000	6000	6000		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
これまでは、前年のブランド認証事業者へのアンケート結果を基にした指標であったが、再構築後の地域ブランド戦略では従来の事業を見直すため、令和2年度から指標を変更する。地域ブランドの魅力の訴求度を測る指標として、各種展示会等への来場者数を新たな指標とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	従来の認証事業者アンケートの結果から本事業が効果的であるとの評価を得ていることが分かるが、その数字は下降傾向にある。また、今年度は本事業の再構築を実施しているが、with/afterコロナを鑑みながら、より実効性のある事業手法を検討し、実行していく。

課題・問題点
<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなすみだ地域ブランド戦略を検討するにあたり、現在の協議会の体制を見直す必要がある。</li> <li>・本事業において廃止する取り組み、新たに始める取り組みを選定していく必要がある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、新たなプロモーションを検討する必要がある。</li> </ul>

# 令和2年度 補助金評価シート

補助金名称	すみだ地域ブランド推進協議会運営補助金			主管課・係（担当）		
根拠法令	すみだ地域ブランド推進協議会運営補助金交付要綱			産業振興課・産業振興担当		
補助概要	「すみだモダン」認証事業において、事業推進団体であるすみだ地域ブランド推進協議会へ補助金を交付する。			03-5608-6188		
目的	すみだ地域ブランド推進協議会の運営に必要な経費の一部を補助することにより、協議会の積極的な活動を促進し、並びに地域ブランド力向上による中小企業の産業振興及びネットワーク構築を図り、もって地域経済の発展と活性化に資することを目的としている。					
対象	すみだ地域ブランド推進協議会					
基準	区独自基準					
補助条件	この補助金の交付の対象は、協議会が行う次に掲げる事業に要する経費とする。 「すみだモダンブランド認証事業」の企画及び運営に関する事業 地域ブランド力向上に関する事業 中小企業の産業振興及びネットワークの構築に係る事業 その他区長が適当と認める事業					
経過	開始年度	平成25年度	終了予定	特になし		
	平成25年度に要綱制定。以降、予算額に応じて毎年度補助金を交付している。					
議会質問の状況	特になし					
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 特になし					

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額（事業費）		5,000	5,000	5,000	5,000	4,400	5,000
決算額（令和2年度は見込み）		4,797	4,998	4,983	5,000	4,395	5,000
財源	国						
	都	0	2,351	2,299	2,302	1,985	2,500
	その他						
一般財源		4,797	2,647	2,684	2,698	2,410	2,500
執行率（％）		95.9%	100.0%	99.7%	100.0%	99.9%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	SNS等による情報発信回数				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		15	令和7年度	目標	300	300	350	350
				実績	473	511	428	395
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	400	400	450	450	500	500
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	すみだ地域ブランドの幅広い認知度向上を図るためには、SNSをはじめとした拡散性の高い情報媒体を活用した、継続的なプロモーションが必要となる。そこで、地域ブランド推進協議会のアカウントで運用するツイッター、フェイスブック、インスタグラムの年間の合計投稿数を指標とし、段階的に引き上げる。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	すみだ地域ブランドの認知度				単位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		60	令和7年	目標				
			実績					
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		50	50	55	55	60	60	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
これまでの、ブランド認証事業者へのアンケート結果を基にした指標であったが、再構築後の地域ブランド戦略では従来の事業を見直すため、令和2年度から指標を変更する。地域ブランドの認知度を新たな指標とし、区内外を対象とするため、60%を最終目標とする。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		従来の認証事業者アンケートの結果から本事業が効果的であるとの評価を得ていることが分かるが、その数字は下降傾向にある。また、今年度は本事業の再構築を実施しているが、with/afterコロナを鑑みながら、より実効性のある事業手法を検討し、実行していく。						

課題・問題点	
<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなすみだ地域ブランド戦略を検討するにあたり、現在の協議会の体制を見直す必要がある。</li> <li>・本事業において廃止する取り組み、新たに始める取り組みを選定していく必要がある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、新たなプロモーションを検討する必要がある。</li> </ul>	

# 令和2年度 補助金評価シート

補助金名称	新商品・新技術開発補助金			主管課・係（担当）
根拠法令	墨田区新商品・新技術開発支援要綱			産業振興課・産業振興担当
補助概要	ものづくりコラボレーション事業の参加事業者を対象として、区内中小企業又はグループが行う新商品・新技術の開発・研究に対し、開発経費等の一部を助成する。			03-5608-6188
目的	区内中小企業又はそのグループが行う新商品・新技術の開発・研究に対し、コンサルティングの実施及び開発に要する経費の一部を助成することにより、商品の企画や開発力の強化・育成及び販路の開拓・拡大を図るとともに、技術の改善に資することを目的とする。			
対象	支援の対象は、次に掲げる要件を全て備えているものとする。 (1) 区内に主たる事業所を有する企業又はグループの構成企業の2分の1以上が区内に主たる事業所を有し、引き続き1年以上事業を営んでいること。ただし、次条第3項に係る支援については、区内に主たる事業所を有し、区内で引き続き1年以上事業を営んでいる者に限る。 (2) 前年度の法人道府県民税（個人企業にあつては市区町村民税）を滞納していないこと。 (3) 中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条第1項に規定する中小企業者であること。 (4) 墨田区暴力団排除条例（平成24年墨田区条例第37号）第2条第2号に規定する暴力団員又は同条第3号に規定する暴力団関係者が経営に関与していないこと。			
基準	区独自基準			
補助条件	支援対象の要件は、次に掲げる要件をすべて備えているものとする。 (1) 原則として、未発表のオリジナル企画であること。 (2) 原則として、他の公的助成を受けていないものであること。 (3) 当該年度の末日までに商品化又は技術開発に係る試作品等一定の成果物が確認できるものであること。			
経過	開始年度	平成25年度	終了予定	令和2年度で休止（要綱は存続）
	【補助実績】 平成31年度 7件 合計 2,283,000円 平成30年度 7件 合計 2,969,000円 平成29年度 6件 合計 2,215,000円 平成28年度 6件 合計 1,839,000円 平成27年度 14件 合計 2,992,000円 平成26年度 9件 合計 2,532,000円			
議会質問の状況	特になし			
その他特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 特になし			

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額（事業費）		3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	休止
決算額（令和2年度は見込み）		2,992	1,839	2,215	2,969	2,283	
財源	国						
	都	0	919	1,107	1,484	1,141	
	その他						
一般財源		2,992	920	1,108	1,485	1,142	0
執行率（％）		83.1%	51.1%	61.5%	82.5%	63.4%	#VALUE!

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	ものづくりコラボレーション選定事業者数				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		15	令和7年度	目標	15	15	15	15
				実績	23	26	24	11
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	休止					
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	<p>多数の事業者の参加が、区内企業の商品力向上に繋がるため。  3人のコラボレーターが、5事業者程度のマッチングを目標とする。  なお、令和2年度は本事業の見直しに伴い、ものづくりコラボレーション事業も休止する。</p>							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	ものづくりコラボレーション開発商品数				単位	商品
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		15	令和7年度	目標	6	6	6	6
				実績	10	12	8	7
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		休止						
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
<p>新商品開発を支援するための補助金であるため。  3人のコラボレーターが、2商品程度の開発を目標とする。  なお、令和2年度は本事業の見直しに伴い、ものづくりコラボレーション事業も休止する。</p>								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		<p>毎年度新商品が開発されていることから一定の効果をj得ていることが分かるが、その数字は下降傾向にある。また、事業全体を見直しに伴い本補助金は休止するが、要綱は存続するため、今後は利用条件、対象者などの見直しを図り、検討していく。</p>						

課題・問題点	
<p>商品開発の原材料費のほか、販路開拓についても補助対象としているため、決定支給時期について検討する必要がある。</p> <p>また、事業全体の見直しに合わせて、当補助金を見直す必要がある。</p>	

# 令和2年度 事務事業評価シート

施 策	313 「ものづくりのまち すみだ」をプロモーションする	部内優先順位
事 業 名	3M運動推進費	2
目 的	区内産業と区内生産品が「正当な評価」、さらに「より高い評価」を受けようとするため、「小さな博物館(Museum)」、「マイスター(Meister)」、「工房ショップ(Manufacturing Shop)」を認定し、施設整備・改修費やPR活動等の経費の補助を行うことでイメージアップを図る。	主管課・係(担当)
		産業振興課産業振興担当 03-5608-1437
対 象 者	3M運動認定事業者	
根拠法令 関連計画	・小さな博物館支援要綱 ・すみだ工房ショップ支援要綱 ・すみだマイスターものづくり事業補助要綱	
実施基準	区独自基準	実施方法 直営 人員体制・委託先 常勤2
事業内容	1 「小さな博物館」運動推進経費 (1) 整備・改修補助 (2) 運営補助 人件費相当及び施設維持管理費 2 「工房ショップ」創出推進経費 整備・改修補助 3 「マイスター」運動推進経費 講習会等、技術の継承に資する活動の経費補助 4 3M運動推進PR経費 (1) 3M運動ガイドマップの作成(デザイン委託、印刷) (2) 3M運動PR実行委員会によるイベント等の経費補助 5 3M運動認定事業者向け講習会の実施	
経 過	開始年度	昭和60年度
	終了予定	
議 会 質 問 の 状 況	昭和60年度 事業開始 昭和61年度 小さな博物館認定開始 昭和63年度 モデルショップ認定開始 平成元年度 マイスター認定開始 平成10年度 工房ショップ認定開始 平成21年度～ 3M運動スペシャルウィーク 平成26年度 3M運動30周年祭 平成27年度 小さな博物館の土日開館に係る上乘せ補助を開始 平成30年度末 認定更新制の導入等のための要綱改正 平成31年度 認定更新制導入、小さな博物館の運営補助金額改定	
	[平成28年3月] ホームページの外国語対応について [平成28年4月] 観光回遊について [平成28年11月] 外国人向けツアー及び外国語パンフレットについて [平成30年6月] 小さな博物館とその他の企業博物館の連携について [平成30年11月] 工房ショップにおけるキャッシュレス化について [令和元年6月] 3M運動の成果及び小さな博物館の改善について [令和元年11月] 3M運動の成果について	
そ の 他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)	
予算・決算額推移(千円)		
	27年度	28年度
	29年度	30年度
	令和元年度	令和2年度
予算現額(事業費)	14,818	14,863
決算額(令和2年度は見込み)	11,713	12,286
財 源		
国		
都		
その他		
一般財源	11,713	12,286
執行率(%)	79.0%	82.7%
	85.0%	87.5%
	59.3%	100.0%
予算・決算の内訳(単位:千円)		
平成30年度(決算)		
令和元年度(決算)		
令和2年度(予算)		
節	概要	金額
報償費	工房文化の都市企画委員謝礼	92
報償費	工房文化の都市企画委員謝礼	180
需用費	認定事業者講習会 講師謝礼	350
需用費	認定事業者講習会 講師謝礼	387
役務費	通信運搬料	66
役務費	通信運搬料	78
委託料	3Mマップ(データ作成)	432
委託料	3Mマップ(データ作成)	355
負担金補助交付金	負担金補助交付金	12,359
負担金補助交付金	負担金補助交付金	7,221
負担金補助交付金	負担金補助交付金	12,422

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	小さな博物館・工房ショップ・マイスター新規認定数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		3	令和7年度	目標	3	3	3	3
				実績	2	2	0	3
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	3	3	3	3	3	3	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区内産業の対外PRとしての拠点等が増えることがイメージアップにつながるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	小さな博物館への来館者数				単位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
39000		37	目標	36000	37000	37000	37000	
			実績	36313	38623	39305	35852	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	38000	38000	38000	39000	39000	39000		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
来館者数の増加により、本事業の認知度が高まり、区内産業と文化のPRにつながるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	認定事業者による活動状況の違い、多様な事業者が参加しているメリットを活かしきれていないこと等から、産業振興の点で十分な成果を実感できるまでに至っていない。更新制の導入等によって認定事業者のクオリティの維持・向上を図っていくほか、その実施結果も踏まえ、すみだモダン等との整理統合も視野に再構築に向けて検討していく。

課題・問題点
1 認定事業者の活動状況の差 2 多様な事業者が参加する3M運動全体としてのメリットを活かしきれていないこと 3 すみだブランド等の類似の顕彰事業との一部統合や整理の検討が必要

# 令和2年度 補助金評価シート

補助金名	小さな博物館運営補助金	主管課・係(担当)	
根拠法令	小さな博物館支援要綱	産業振興課産業振興担当	
補助概要	区内産業と区内生産品のイメージアップのために認定している「小さな博物館(Museum)」について、施設運営費の補助を行っている。	03-5608-1437	
目的	区内産業と区内生産品が「正当な評価」、さらに「より高い評価」を受けようとするため、「小さな博物館(Museum)」を認定し、施設運営費の補助を行うことでイメージアップを図る。		
対象	3M運動「小さな博物館」運営事業者		
基準	区独自基準		
補助条件	1. 運営補助 人件費相当及び施設維持管理費 1日あたり700円 土日開館の上乗せ 1日あたり1,500円 (土日を含め週3日以上、1日あたり5時間以上開館) 2. 整備補助 補助率10分の10、45万円限度		
経過	開始年度	昭和61年度	終了予定
	昭和60年度 事業開始 昭和61年度 小さな博物館認定開始 平成26年度 3M運動30周年祭 平成27年度 小さな博物館の土日開館に係る上乗せ補助を開始 平成30年度末 小さな博物館運営補助金見直し等のための要綱改正 令和元年度 認定更新制導入、小さな博物館の運営補助金額改定		
議会質問の状況	[平成28年3月] ホームページの外国語対応について [平成28年4月] 観光回遊について [平成28年11月] 外国人向けツアー及び外国語パンフレットについて [平成30年6月] 小さな博物館とその他の企業博物館の連携について [令和元年6月] 3M運動の成果及び小さな博物館の改善について [令和元年11月] 3M運動の成果について		
その他特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)		

予算・決算額推移(千円)		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額(事業費)		7,260	7,380	10,404	11,028	10,012	9,571
決算額(令和元年度は見込み)		6,690	8,459	9,193	8,960	5,967	9,571
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		6,690	8,459	9,193	8,960	5,967	9,571
執行率(%)		92.1%	114.6%	88.4%	81.2%	59.6%	100.0%

補助金の 成果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	小さな博物館認定数(年度内合計)				単 位	館
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		37	37	目 標	29	30	31	32
				実 績	29	29	29	25
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	33	33	34	35	36	37
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区内産業の対外PRとしての拠点が維持・増加されることがイメージアップにつながるため。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	小さな博物館への来館者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		39000	37	目 標	36000	37000	37000	37500
				実 績	36313	38623	39305	35852
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	37500	38000	38000	38500	38500	39000
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
区内産業への関心の高さを確認するのに適している。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		認定事業者による活動状況の違い、多様な事業者が参加しているメリットを活かしきれていないこと等から、産業振興の点で十分な成果を実感できるまでに至っていない。更新制の導入等によって認定事業者のクオリティの維持・向上を図っていくほか、その実施結果も踏まえ、すみだモダン等との整理統合も視野に再構築に向けて検討していく。						

課題・問題点	
<p>1 認定事業者の活動状況の差</p> <p>2 多様な事業者が参加する3M運動全体としてのメリットを活かしきれていないこと</p> <p>3 すみだブランド等の類似の顕彰事業との一部統合や整理の検討が必要</p>	

## 令和2年度 補助金評価シート

補助金 名称	マイスターものづくり事業補助金			主管課・係(担当)		
根拠法令	マイスターものづくり事業補助要綱			産業振興課産業振興担当		
補助概要	区内産業と区内生産品のイメージアップのために認定している「マイスター(Meister)」について、活動経費の補助を行っている。			03-5608-1437		
目的	区内産業と区内生産品が「正当な評価」、さらに「より高い評価」を受けるようにするため、「マイスター(Meister)」を認定し、PR活動等の経費の補助を行うことでイメージアップを図る。					
対象	3M運動「マイスター」認定者					
基準	区独自基準					
補助条件	展示会、講習会等、技術の継承に資する活動に要する経費の補助 補助率3分の2、45万円限度					
経過	開始年度	平成元年度	終了予定			
	平成元年度 マイスター認定開始 平成26年度 3M運動30周年祭 平成30年度末 認定更新制の導入等のための要綱改正 令和元年度 認定更新制導入					
議会質問 の状況	[平成28年3月] ホームページの外国語対応について [平成28年4月] 観光回遊について [平成28年11月] 外国人向けツアー及び外国語パンフレットについて [令和元年6月] 3M運動の成果及び小さな博物館の改善について [令和元年11月] 3M運動の成果について					
その他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)					

予算・決算額推移(千円)		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額(事業費)		450	450	450	450	450	1,350
決算額(令和元年度は見込み)		573	490	450	605	1,254	1,350
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		573	490	450	605	1,254	1,350
執行率(%)		127.3%	108.9%	100.0%	134.4%	278.7%	100.0%

# 令和2年度 補助金評価シート

補助金の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	補助金活用件数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		5	37	目標	3	3	3	3
				実績	3	1	3	4
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	4	4	4	5	5	5
		実績						
指標の選定理由及び目標値の理由								
マイスターのPR活動実績に比例して補助金活用件数も増えるものとみられるため。								
補助金の成果	目的に対する指標 (成果指標)	指標					単位	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標						
		実績						
指標の選定理由及び目標値の理由								
指標の選定理由及び目標値の理由								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		認定事業者による活動状況の違い、多様な事業者が参加しているメリットを活かきれていないこと等から、産業振興の点で十分な成果を実感できるまでに至っていない。更新制の導入等によって認定事業者のクオリティの維持・向上を図っていくほか、その実施結果も踏まえ、すみだモダン等との整理統合も視野に再構築に向けて検討していく。						

課題・問題点
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 認定事業者の活動状況の差</li> <li>2 多様な事業者が参加する3M運動全体としてのメリットを活かきれていないこと</li> <li>3 すみだブランド等の類似の顕彰事業との一部統合や整理の検討が必要</li> </ol>

## 令和2年度 補助金評価シート

補助金 名 称	工房ショップ整備補助金			主管課・係(担当)		
根拠法令	すみだ工房ショップ支援要綱			産業振興課産業振興担当		
補助概要	区内産業と区内生産品のイメージアップのために認定している「工房ショップ(Manufacturing Shop)」について、施設整備・改修費の補助を行っている。			03-5608-1437		
目 的	区内産業と区内生産品が「正当な評価」、さらに「より高い評価」を受けるようにするため、「工房ショップ(Manufacturing Shop)」を認定し、施設整備・改修費の補助を行うことでイメージアップを図る。					
対 象	3M運動「工房ショップ」運営事業者					
基 準	区独自基準					
補助条件	補助率2分の1、150万円限度					
経 過	開始年度	平成10年度	終了予定			
	平成10年度 工房ショップ認定開始 平成26年度 3M運動30周年祭 平成30年度末 認定更新制の導入等のための要綱改正 令和元年度 認定更新制導入					
議会質問 の状況	[平成28年3月] ホームページの外国語対応について [平成28年4月] 観光回遊について [平成28年11月] 外国人向けツアー及び外国語パンフレットについて [平成30年11月] 工房ショップにおけるキャッシュレス化について [令和元年6月] 3M運動の成果及び小さな博物館の改善について [令和元年11月] 3M運動の成果について					
その他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)					

予算・決算額推移(千円)		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額(事業費)		4,500	3,000	3,000	1,500	3,000	1,500
決算額(令和元年度は見込み)		1,500	1,500	939	2,003	0	1,500
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		1,500	1,500	939	2,003	0	1,500
執行率(%)		33.3%	50.0%	31.3%	133.5%	0.0%	100.0%

# 令和2年度 補助金評価シート

補助金の 成果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	工房ショップ新規認定数				単 位	店 舗	
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	R1		
		37	1	目 標 1	1	1	1	1	
				実 績 0	1	1	0	0	
				R2	R3	R4	R5	R6	R7
				目 標	1	1	1	1	1
				実 績					
指標の選定理由及び目標値の理由									
区内産業の対外PRとしての拠点が増えることがイメージアップにつながるため。									
補助金の 成果	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	工房ショップ新規認定数				単 位	店 舗	
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	R1		
				目 標					
				実 績					
				R2	R3	R4	R5	R6	R7
				目 標					
				実 績					
指標の選定理由及び目標値の理由									
区内産業の対外PRとしての拠点が増えることがイメージアップにつながるため。									
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等							
改善・見直しのうえ継続		<p>認定事業者による活動状況の違い、多様な事業者が参加しているメリットを活かしきれていないこと等から、産業振興の点で十分な成果を実感できるまでに至っていない。更新制の導入等によって認定事業者のクオリティの維持・向上を図っていくほか、その実施結果も踏まえ、すみだモダン等との整理統合も視野に再構築に向けて検討していく。</p>							

課題・問題点
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 認定事業者の活動状況の差</li> <li>2 多様な事業者が参加する3M運動全体としてのメリットを活かしきれていないこと</li> <li>3 すみだブランド等の類似の顕彰事業との一部統合や整理の検討が必要</li> </ol>



事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	補助金を活用した取組件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		8	令和7年度	目 標	5	5	5	6
				実 績	5	5	5	7
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	7	7	7	8	8	8	
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	補助金の統合により、意欲的に活動する複数事業者の連携したものづくりプロモーション活動が活発になるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	取組事業への参加者数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
30,000		令和7年度	目 標				24,000	
			実 績				26,555	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	14,000	24,000	27,000	28,000	29,000	30,000		
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
参加者数の増加により、「ものづくりのまち」としての認知度向上につながるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	新型コロナウイルスの影響により、例年どおりのイベント等開催が困難になっている。このような状況にも対応できるよう、補助基準の見直しを検討する必要がある。

課題・問題点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組事業の将来的な自立化</li> <li>・既存の事業にとどまらず、新規事業に積極的に活用してもらうための周知や発掘</li> </ul>

# 令和2年度 補助金評価シート

<b>補助金名称</b>	ものづくりプロモーション推進補助金			主管課・係（担当）
<b>根拠法令</b>	墨田区ものづくりプロモーション推進補助金交付要綱			産業振興課産業振興担当
<b>補助概要</b>	区内のものづくり事業者が参画して実施するイベント等事業に対して、事業の実施に係る経費の一部を補助する。 上限150万円（補助率10/10）。ただし、参加事業者が30者以上のときは上限100万円を加算。			03-5608-1437
<b>目的</b>	東京2020オリンピック・パラリンピック開催を期に、区民が愛着と誇りを持てる「ものづくりのまち」としての統一的なブランドイメージを強化するため、区内事業者が連携した取組の更なる活性化を図るとともに、まち全体の認知度を高める。			
<b>対象</b>	代表者を含む2者以上が次の要件を全て満たすグループ 1. 次の認定等のいずれかを受けている事業者 すみだ3M運動の認定、すみだブランドの認証、墨田区新ものづくり創出拠点、すみだリーディングファクトリーの選定 2. 中小企業者又は区内の中小企業を主たる構成員とする一般社団法人若しくは一般財団法人			
<b>基準</b>	区独自基準			
<b>補助条件</b>	次に掲げる要件を全て満たす事業 1. 本補助金の目的を達成するために補助対象事業者が実施する事業 2. 参加する区内ものづくり事業者が4者以上の事業 3. 参加する区内事業者が全体の3分の1以上の事業 4. 事業名称が墨田区を想起させる事業 5. 将来的に自立化できるよう努める事業			
<b>経過</b>	<b>開始年度</b>	平成31年度	<b>終了予定</b>	
	令和元年度 事業開始（ものづくり事業者によるプロモーション活動を支援する既存の以下の3補助金を統合） 「イチから始める」運動補助金（ガラス市） 墨田区ものづくりイベント補助金（スミファ等） 3M運動PR実行委員会補助金（3M運動スペシャルウィーク）			
<b>議会質問の状況</b>	[平成28年11月] スミファ等のイベントの支援強化について			
<b>その他特記事項</b>	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 予算・決算額推移の平成27年度から平成30年度までは、3事業に係る経費の合計額			

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額（事業費）		5,500	5,500	5,500	5,500	18,000	8,000
決算額（令和2年度は見込み）		4,800	4,584	4,790	4,590	16,618	8,000
財源	国						
	都	1,105	972	1,064	1,052	3,260	4,000
	その他						
一般財源		3,695	3,612	3,726	3,538	13,358	4,000
執行率（％）		87.3%	83.3%	87.1%	83.5%	92.3%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	補助金を活用した取組件数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		8	令和7年度	目標	5	5	5	6
				実績	5	5	5	7
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	7	7	7	8	8	8
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	補助金の統合により、意欲的に活動する複数事業者の連携したものづくりプロモーション活動が活発になるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	取組事業への参加者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		30,000	令和7年度	目標	27,000	22,000	23,000	24,000
				実績	31,100	24,900	23,200	26,555
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		14,000	24,000	27,000	28,000	29,000	30,000	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
参加者数の増加により、「ものづくりのまち」としての認知度向上につながるため。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		新型コロナウイルスの影響により、例年どおりのイベント等開催が困難になっている。このような状況にも対応できるよう、補助基準の見直しを検討する必要がある。						

課題・問題点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組事業の将来的な自立化</li> <li>・既存の事業にとどまらず、新規事業に積極的に活用してもらうための周知や発掘</li> </ul>	



事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	相談件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		80	令和7年度	目標	80	80	80	80
				実績	52	67	20	11
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	80	80	80	80	80	80	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	指標の選定理由: 相談が知的財産権取得補助金の交付対象者の要件の一つとなっているため。 目標値の理由: 過去5年間の相談件数の平均値をキープする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	交付件数				単 位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
12		令和7年度	目標	12	12	12	12	
			実績	9	18	14	11	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	12	12	12	12	12	12		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
指標の選定理由: 具体的な成果の件数を把握できるため。 目標値の理由: 現状の予算の範囲内で最大限に交付できた場合の件数。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	自社の権利を保護するためには、知的財産権の取得は極めて有効な手段であり、今後も区内企業からのニーズはあると想定される。また、知的財産権取得に係る経費は先行技術調査や出願料、弁理士手数料等多岐にわたり、区内企業が積極的に取得を行うためには本事業は引き続き必要である。

課題・問題点
知的財産権の取得には多額の申請経費がかかるため、区が経費の一部補助をすることで、区内中小企業者の商品開発意欲を促すことができるが、補助金交付後の効果検証が難しく、有効性の全体像を客観的に把握することが困難となっている。

# 令和2年度 補助金評価シート

補助金名称	墨田区知的財産権取得補助金			主管課・係（担当）		
根拠法令	墨田区知的財産権取得補助金交付要綱			経営支援課・経営支援担当		
補助概要	区内の中小企業が特許権等の知的財産権取得のための出願等に要した経費の一部を補助する。			5608-6183		
目的	区内の中小企業が特許権等の知的財産権取得のための出願等に要した経費の一部を補助することにより、中小企業における新たな開発や事業創出等に対する意欲を助長し、区内産業の製品開発力の強化を図り、区内産業の活性化に寄与する。また、知的財産の保護・活用を促進し、他社との差別化や競争力の向上など、企業の経営体質強化につなげる。					
対象	中小企業基本法に規定する中小企業者で墨田区に本社を有するもの。また、個人事業者の場合は墨田区に事業所を有するもの。					
基準	区独自基準					
補助条件	対象となる知的財産は「特許権、実用新案権、意匠権、商標権（国内出願に限る）」で、出願から1年以内であること 区内に主たる事業所を有する中小企業者で、知的財産権出願時に区内で引き続き1年以上事業を営んでいること 知的財産権の活用事業計画があること 大企業が実質的に経営に参画していないこと 対象となる経費は出願料、出願審査請求料、特許料、登録料、出願・取得に係る手続きを弁理士や弁護士に委託した場合の報酬 補助金額は補助対象経費の2分の1以内かつ上限20万円					
経過	開始年度	平成24年度	終了予定			
経過	平成24年度より事業開始 交付件数 平成26年度 11件、平成27年度 9件、平成28年度 9件、平成29年度 18件、平成30年度 14件 令和元年度 11件（特許権 7件、実用新案 2件、意匠権 1件、商標権 1件） 事例 【特許】カップシール用カッター（ドリンク用カップのシールを切る道具）、多機能フェンス（防球フェンス）等 【実用新案】製品の清潔保持用器具（消臭抗菌防カビ効果のある特殊塗料を名刺サイズの鉄のプレートに吹き付けた消臭抗菌カード）等					
議会質問の状況						
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 特許庁への出願から1年以内の案件を対象としている。					

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額（事業費）		1,400	1,400	2,800	2,102	2,102	2,100
決算額（令和2年度は見込み）		1,118	1,318	2,548	1,987	1,599	2,100
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		1,118	1,318	2,548	1,987	1,599	2,100
執行率（％）		79.9%	94.1%	91.0%	94.5%	76.1%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	相談件数(知的財産権)				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		80	令和7年度	目標	80	80	80	80
				実績	52	67	20	11
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	80	80	80	80	80	80
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	指標の選定理由：相談が知的財産権取得補助金の交付対象者の要件の一つとなっているため。 目標値の理由：過去5年間の相談件数の平均値をキープする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	交付件数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		12	令和7年度	目標	12	12	12	12
				実績	9	18	14	11
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		12	12	12	12	12	12	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
指標の選定理由：具体的な成果の件数を把握できるため。 目標値の理由：現状の予算の範囲内で最大限に交付できた場合の件数。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
現状維持		自社の権利を保護するためには、知的財産権の取得は極めて有効な手段であり、今後も区内企業からのニーズはあると想定される。また、知的財産権取得に係る経費は先行技術調査や出願料、弁理士手数料等多岐にわたり、区内企業が積極的に取得を行うためには本事業は引き続き必要である。						

課題・問題点	
<p>知的財産権の取得には多額の申請経費がかかるため、区が経費の一部補助をすることで、区内中小企業者の商品開発意欲を促すことができるが、補助金交付後の効果検証が難しく、有効性の全体像を客観的に把握することが困難となっている。</p>	



事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	申込件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		17	R7	目 標	9	15	15	15
				実 績	12	25	38	45
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	16	16	16	17	17	17
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	申込件数により必要性が確認できる。目標値については平成29年度より海外販路拡張補助金事業と統合、また1企業でも産業展に出展することにより補助金申請ができるようになったことに伴い、申込件数が増加していくことが見込まれる。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	交付件数				単 位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
17		R7	目 標	9	15	15	15	
			実 績	12	25	38	45	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		16	16	16	17	17	17	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
申込件数により必要性が確認できる。目標値については平成29年度より海外販路拡張補助金事業と統合、また1企業でも産業展に出展することにより補助金申請ができるようになったことに伴い、申込件数が増加していくことが見込まれる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	新型コロナウイルスの影響を受けて中止されていた展示会が10月から開催されていくことを見込み、区内事業者等が販路拡張や自社PRをする為の支援として補助額等を見直し、支援していく必要がある。

課題・問題点
区内生産品等販路拡張補助金の申請件数は毎年度増加傾向にある。 しかし、新型コロナウイルスの影響でイベント等が中止となっており、事業者の自社PRをする機会が減少している。 そのため、イベントが再開されることを見込んだ支援として、補助額の引き上げ等を行い積極的に展示会に出展、自社PRできるよう支援していく必要がある。

# 令和2年度 補助金評価シート

補助金名称	区内生産品等販路拡張事業補助金	主管課・係（担当）	
根拠法令	区内生産品等販路拡張事業補助金交付要綱	経営支援課経営支援課	
補助概要	墨田区内の生産品等の販路拡張事業を実施する団体又は企業に対し、経費の一部を助成し、区内中小企業の振興を図る。	5608-6183	
目的	区内中小企業の優れた技術等の発信や技術力の事業化を促し、大手企業に対する営業力強化・販路開拓支援によるビジネスチャンスの拡大により区内産業の活性化を図る。		
対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内（団体）：区内に中小企業を有する中小企業5社以上で構成される団体又はその支部で、国内販路拡張事業を行おうとするもの</li> <li>・国内（1社）：区内に事業所を有する中小企業で、国内販路拡張事業のうち、産業展に出展しようとするもの</li> <li>・海外：区内に事業所を有する中小企業で、海外販路拡張事業を行おうとするもの。</li> </ul>		
基準	区独自基準		
補助条件	国内（団体）：補助対象経費の2分の1の額（1,000円未満切捨て）又は85万円のうち、いずれか少ない額 国内（1社）：補助対象経費の2分の1の額（1,000円未満切捨て）又は10万円のうち、いずれか少ない額 海外：補助対象経費の2分の1の額（1,000円未満切捨て）又は30万円のうち、いずれか少ない額		
経過	開始年度	昭和53年度	終了予定
	昭和53年度 事業開始 平成3年度 対象事業に海外での展示会開催等を追加（限度額300万円） 平成7～9年度 産業国際交流事業補助（海外視察経費等 限度額500万円）の廃止 平成11年度 海外見本市出展支援事業を統合 平成15年度 海外見本市出展補助の休止（区財政上の問題及び都に類似の助成制度有） 平成28年度 海外販路拡張事業補助再開 平成29年度 国内（1社）販路拡張事業補助開始		
議会質問の状況			
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等）  補助金申請受付：展示会等の出展1か月前まで 終了報告書：出展終了後2か月以内まで		

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額（事業費）		8,500	10,350	10,500	10,603	14,897	12,700
決算額（令和2年度は見込み）		7,285	7,960	8,909	9,971	10,170	12,700
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		7,285	7,960	8,909	9,971	10,170	12,700
執行率（％）		85.7%	76.9%	84.8%	94.0%	68.3%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	申込件数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		17	R7	目標	9	15	15	15
				実績	12	25	38	45
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	16	16	16	17	17	17
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由 申込件数により必要性が確認できる。目標値については平成29年度より海外販路拡張補助金事業と統合、また1企業でも産業展に出展することにより補助金申請ができるようになったことに伴い、申込件数が増加していくことが見込まれる。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	交付件数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		17	R7	目標	9	15	15	15
				実績	12	25	38	45
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	16	16	16	17	17	17
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由 申込件数により必要性が確認できる。目標値については平成29年度より海外販路拡張補助金事業と統合、また1企業でも産業展に出展することにより補助金申請ができるようになったことに伴い、申込件数が増加していくことが見込まれる。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		新型コロナウイルスの影響を受けて中止されていた展示会が10月から開催されていくことを見込み、区内事業者等が販路拡張や自社PRをする為の支援として補助額等を見直し、支援していく必要がある。						

課題・問題点	
<p>区内生産品等販路拡張補助金の申請件数は毎年度増加傾向にある。</p> <p>しかし、新型コロナウイルスの影響でイベント等が中止となっており、事業者の自社PRをする機会が減少している。</p> <p>そのため、イベントが再開されることを見込んだ支援として、補助額の引き上げ等を行い積極的に展示会に出展、自社PRできるよう支援していく必要がある。</p>	



事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活動指標)	指 標	アウトオブキッズニアinすみだ参加事業者数				単 位	社
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		10	令和7年度	目 標	6	6	7	8
				実 績	6	6	6	5
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	8	9	9	10	10	10
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	本プログラムへの参加事業者数の増加は、実施プログラム内容の充実につながるため。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成果指標)	指 標	アウトオブキッズニアinすみだ子ども体験者数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
2100		令和7年度	目 標	1300	1500	1650	1800	
			実 績	1360	1173	1262	1394	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		1800	1950	1950	2100	2100	2100	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
アウトオブキッズニアinすみだの体験者数増加により、墨田区産業及び墨田区の認知度向上につながり、「ものづくりのまち すみだ」を区内外にPRするきっかけとなるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	将来的な自立化に向けて、関係者の役割見直しや参加事業者の増等によるコスト削減・収益向上を図っていく。

課題・問題点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金に依存した実施状況</li> <li>・参加事業者の減少</li> <li>・新しい生活様式に対応したプログラムの検討、感染症対策</li> </ul>

## 令和2年度 補助金評価シート

補助金名称	アウトオブキッズニアinすみだ運営協議会補助金			主管課・係(担当)		
根拠法令				産業振興課産業振興担当		
補助概要	区内の工房・工場での職業体験プログラムの開発・販売事業に参加する区内事業者によって構成する「アウトオブキッズニアinすみだ運営協議会」に対して、事業経費を補助する。			03-5608-1437		
目的	子どもたちの職業体験プログラムを提供することで、ものづくりと観光の融合が図られたまち「すみだ」の実現を図る。					
対象	「アウトオブキッズニアinすみだ」参加事業者					
基準	区独自基準					
補助条件	プログラム開発経費助成 補助率2/3 プログラムクオリティチェック費助成 補助率2/3 体験商品の企画・PR・販売経費助成 補助率3/4 は参加事業者数による頭割りとなるが、各社の負担は10事業者が参加した場合の額とし、その事業者数に満たなかった分は区が負担している。					
経過	開始年度	平成22年度		終了予定		
	平成24年度 子ども向けの職業体験プログラムとして事業開始(参加企業8社) 東京彫刻工業が新規参加(参加企業9社) 東京彫刻工業、KAMISM Lab.が脱退(参加企業7社) 平成26年度 すみだ江戸切子館、紗蔵が脱退(参加企業5社) 平成27年度 中学生向け教育旅行プログラム「すみだジュニアマイスター」を販売開始 平成29年度 小倉メリヤス製造所が新規参加(参加企業6社) 大人向けの研修プログラム「地恵のたび」を販売開始 平成30年度 浜野製作所が脱退(参加企業5社) 令和元年度 セイコミュージアムが区外移転(協議会は継続して参加。ただし、補助対象外)					
議会質問の状況	[平成25年3月] アウトオブキッズニアinすみだの実績・成果について [平成27年12月] アウトオブキッズニアinすみだとスミファの連携について [平成28年4月] アウトオブキッズニアinすみだの区基本計画への掲載について					
その他特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 平成26年より、江東区にて「アウトオブキッズニアin KOTO」がスタートし、PRチラシへの相互掲載などで連携中。					

予算・決算額推移(千円)		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額(事業費)		4,375	3,787	3,214	3,298	3,227	2,913
決算額(令和元年度は見込み)		2,912	2,238	2,738	2,124	2,262	2,913
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		2,912	2,238	2,738	2,124	2,262	2,913
執行率(%)		66.6%	59.1%	85.2%	64.4%	70.1%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	アウトオブキッズニアinすみだ参加事業者数				単 位	社
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		10	令和5年度	目標	1300	1500	1650	1800
				実績	1360	1173	1262	1394
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	8	9	9	10	10	10
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	本プログラムへの参加事業者数の増加は、実施プログラム内容の充実につながるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	アウトオブキッズニアinすみだ子ども体験者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H29)	H30	R1	R2
		2100	令和5年度	目標	1500	1650	1800	1800
				実績	1173	1262	1394	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		1800	1950	1950	2100	2100	2100	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
アウトオブキッズニアinすみだの体験者数増加により、墨田区産業及び墨田区の認知度向上につながり、「ものづくりのまち すみだ」を区内外にPRするきっかけとなるため。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		将来的な自立化に向けて、関係者の役割見直しや参加事業者の増等によるコスト削減・収益向上を図っていく。						

課題・問題点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金に依存した実施状況</li> <li>・参加事業者の減少</li> <li>・新しい生活様式に対応したプログラムの検討、感染症対策</li> </ul>	